



先日ゆとりぎにて行った「はむら保育展」には雨天にもかかわらず大勢の方にお越しいただき本当にありがとうございました。おかげさまで大盛況の中、無事終了することができました。

小春日和が続きとても過ごしやすい11月でしたが、さすがに月末にもなると朝晩は寒さも増し冬らしくなってきました。街のあちらこちらにクリスマスの飾りが見られるようになり、今年もあとひと月を残すのみとなりました。

寒いといふ部屋の中で過ごしたくなるのは大人の感覚で、子どもはとにかく戸外が大好きです。天気の良い日はできるだけ戸外でしっかりと体を動かし、運動機能を高めたり、風邪などひかない元気な体を作って行きたいと思います。

12月といえば、クリスマス、おもちつき、大掃除、年末の買物等、子ども達にとっては楽しいことがいっぱいあります。子どもたちにできる簡単なことはお手伝いをさせてあげて下さい。そして「ありがとう、助かったよ」と声を掛けてあげて下さい。子ども達にとってお父さんやお母さんの役に立てたということはとても大きな喜びであり、自信につながります。

あわただしくなるこの時期、子ども達や保護者の方とのコミュニケーションをおろそかにしないよう、気をつけていきたいと思っています。



### 年末年始も規則正しい生活をしましょう



- ・早寝早起き、朝昼晩の食事・おやつ・テレビを見る時間などは、きちんと決めておきましょう。
- ・年末年始に限らず、ふだんから生活のリズムが大人中心になりがちです。子どもたちのリズムを大切にしましょう。
- ・暖房のついている部屋に閉じこもらないで、戸外でも遊びましょう。



### 大掃除

12/14(土)は保育園内の大掃除を行います。当日は何かとご迷惑をおかけすると思いますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願いします。

### 朝の連絡はできる限り「メール」をお願いします。

朝に保育園へ連絡をいただく際、メールでの連絡でも特に問題がない場合は、お電話ではなくメールにてご連絡いただくと助かります。よろしくお願いします。



### 12月の予定

- 3(火) 職員園内研修
- 4(水) 音楽指導(幼児)
- 6(金) もちつき
- 9~13 身体測定
- 10(火) 体育指導(幼児)
- 13(金) 避難訓練
- 14(土) 大掃除
- 19(木) 音楽指導(幼児)
- 20(金) 職員会議
- 25(水) 調理保育(らいおん)
- 30(月) 年末保育(あおぞら保育園)

12/29~1/3は 年末年始休みです

### 1月の予定

- 14~17 身体測定
- 16(木) SUN太りハーサル
- 22(水) 体育指導(幼児)
- 25(土) SUN太お楽しみ会
- 29(水) 調理保育(ぱんだ)
- 30(木) 避難訓練
- 31(金) お誕生日会

### 12月6日は「おもちつき」



「よいしょ、よいしょ!」と杵を手に、かいたおもちをつく子どもたちの声が園内に響き渡り、ほのほのとした雰囲気にもまれるおもちつき!! 当日ご協力いただける保護者の皆様には何かとご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお祈りします!!

### お知らせ

インフルエンザが流行が懸念されています。流行の状況により変更となる場合があります、お手伝いいただける保護者の皆様にはご迷惑をおかけすることもあります。よろしくお願いします。

## しつけについて(後編)

続 子どもへのまなざし 佐々木 正美著(福音館書店)より抜粋



前編(11月の園だより)からのつづき→



### しつけをする前に大切なこと

子どもが成長して、やがて友達やおとなたちと一緒に生活するようになります。そのときに、社会的なルールとか、まわりの人を尊重しながらとか、社会の目を気にしながらとか、そういう社会的人格を身につけるために、必要なものがしつけだと思っています。けれども、子どもが小さいときは、まわりの人の目とか、世間のことを気にしてあげるの、最初はあくまで親だけでいいと思うのです。しつけが大切だからといって、小さいうちから子どもにそういうことを、気にさせすぎるとはいけなく私は思っています。

私は今、仕事で岡山と新横浜を新幹線で毎週往復しています。この間、私が三人がけの右端に座っていました。左の二つの座席があいていたときのことで、そこへ幼い子どもを連れて、若いお母さんが京都から乗ってきました。しばらくしたら、幼い子は退屈になったようで、自分のリュックのなかから、ピーピー鳴るゲームを取り出しました。幼い子どもにとっては、電車のなかで、ただじっと座っているのは退屈なんだろうね。

私がお母さんにお話を伺いましたら、実家のお父さんが急に倒れて入院したので、そのお見舞いと看護にいったんだそうです。そして、「病気も峠を越したので、また嫁ぎ先の福岡まで帰るんです」といっていました。お母さんは私と話しながらも、その子にピーピーやっているゲームの音を、「もっと小さくしなさい」とか聞いていました。あの音は自由に調節できるらしいのですが、その子は小さい音ではつまらないといっているんです。大きい音でピーピー鳴るのがいいんでしょうね。

私は「そんなものはちっとも気になりませんから、いいですよ。私にも昔、小さい子がいて、その子もさんざんやっていました。気になりませんから自由にやってください」といいましたら、その子はじっと私のほうをみて、こわくなさそうなおじさんだと思ったんでしょうね。安心してピーピーと続けていました。

そのうちに私のほうに足を投げ出してきましたが、「ああ、安心していいんだな」と思っていました。子どもは足が短いので、座席の縁からぶらぶら足をたれていると疲れるのでしょね。私たちだって疲れてくると、足を投げ出したくなりますよ。お母さんは子どもをたしなめていました。

その子にしてみれば、お母さんのほうに足を投げ出

すと怒られると思ったのでしょうか、それで私のほうに投げ出してきたんですね。「ああ、それでいいんだ」と思いました。それから安心して、私のほうに足を投げ出してゲームをやっていました。

そういうふうに「ああ、知らない人がいるんだ」、自分がこうしてほしいと思ったら「いいよ」としてくれる人に、一人でも多くめぐまれて育っていくことが大切なことなんです。本当はそういうことが、毎日のようにあるといいんですよ。親に怒られるようなことをしたけれど、「いいよ」としてくれた人もいた、というような経験もいいんですよ。その程度のことで、だらしのない子どもになるとか、しつけもできない子になってしまうということはないのです。

しつけをする場合には、まず、子どもには親に守られているという実感が必要なんです。それはもっとも根源的なものです。親から無条件の受け入れられ方、守られ方をたくさんした子どもでないと、本当にしつけはしにくいのです、教育しにくいのです。自分を守ってくれるという経験が、子どもに豊かに伝わっていれば、親や教育者などおとなから教えたことは、本当に教えやすいんですよ。

けれども、親から守られたという経験が少ない子どもに、最初からあれこれ指示や命令をするというしつけ方をすると、子どもの気持ちを傷つけてしまうことになりがちです。まず、子ども自身の気持ちが十分に受け入れられたあとで伝えたいほうが、伝わっていきやすいわけですね。本来はそのような経験をしながら、子どもたちは育っていくものなんです。

ですから、子どもが何か月、何歳になったからといって、こういうことは身につけているはずだなんていうことは、今の社会では、ほとんど常識ではなくなっていると思います。この子には、もう相当しっかりしたことを教えられるという場合もありますが、同じ年齢になっても、この子はまだまだと思わざるをえない子どももたくさんいるんですよ。

まだまだどころか、思春期、青年期になっても、簡単な社会的ルールを守れない若者だってたくさんいます。そういう若者に会ってみればわかることですが、しっかり教育やしつけがされていないという以前に、親やおとなから、そのような愛され方、守られ方をしていないということのほうがもっと問題なんですよ。みなさんには、そういう目をぜひ持って、しつけについても考えていただきたいと思っています。